



# 北の森<sup>も</sup>林<sup>り</sup> 国有林



## 今月のトピック

- ・災害発生等の緊急時における  
林道の活用事例について

大雪山黒岳からのニセイカウシュツペ山(左)、  
平山(中央)、屏風岳(右)



国民の森林・国有林

北海道森林管理局

# 災害発生等の緊急時における

# 林道の活用事例について

林道は、森林を手入れして健全な状態に保ち、また、間伐材等の生産、運搬コストを削減して木材の利活用を促進することを主な目的として開設される道路です。

北海道内には、総延長で24,065Km(平成27年3月末現在)の林道があります。

そのうち森林管理署等が管理する国有林林道は16,120Kmで、全体の約7割を占めています。

今夏、北海道に相次いで襲来した台風7号、11号、9号、10号による一連の大雨による河川の氾濫や浸水により、道内

の道路や農地は、かつてないほどの甚大な被害を受けました。

このような状況の中、国有林林道が緊急避難路や迂回路として、地域に活用された代表的な事例を紹介します。

## 事例1

### 住民の生活道を確保

日高北部森林管理署管内  
沙流郡日高町千栄地区

ホロナイ林道

延長(15,039m)

8月31日、台風10号の通過により沙流川が増水し、国道274号に架かる「千呂露橋(ちろろばし)」が崩落し、日高町市街地と千栄(ちさか)地区が寸断され孤立状態となりました。

このため、ホロナイ林道を住民46世帯75人の緊急避難路及び迂回路として活用しました。

このことについては地元新聞でも「孤立集落林道が命綱」という見出しで大きく取り上げられました。

## 北海道森林管理局管内図



一般車両の通行状況  
(ホロナイ林道)

事例2

地域の生活用水を確保

十勝西部森林管理署

東大雪支管内

河東郡上士幌町清水谷地区

清水谷林道（一部利用）

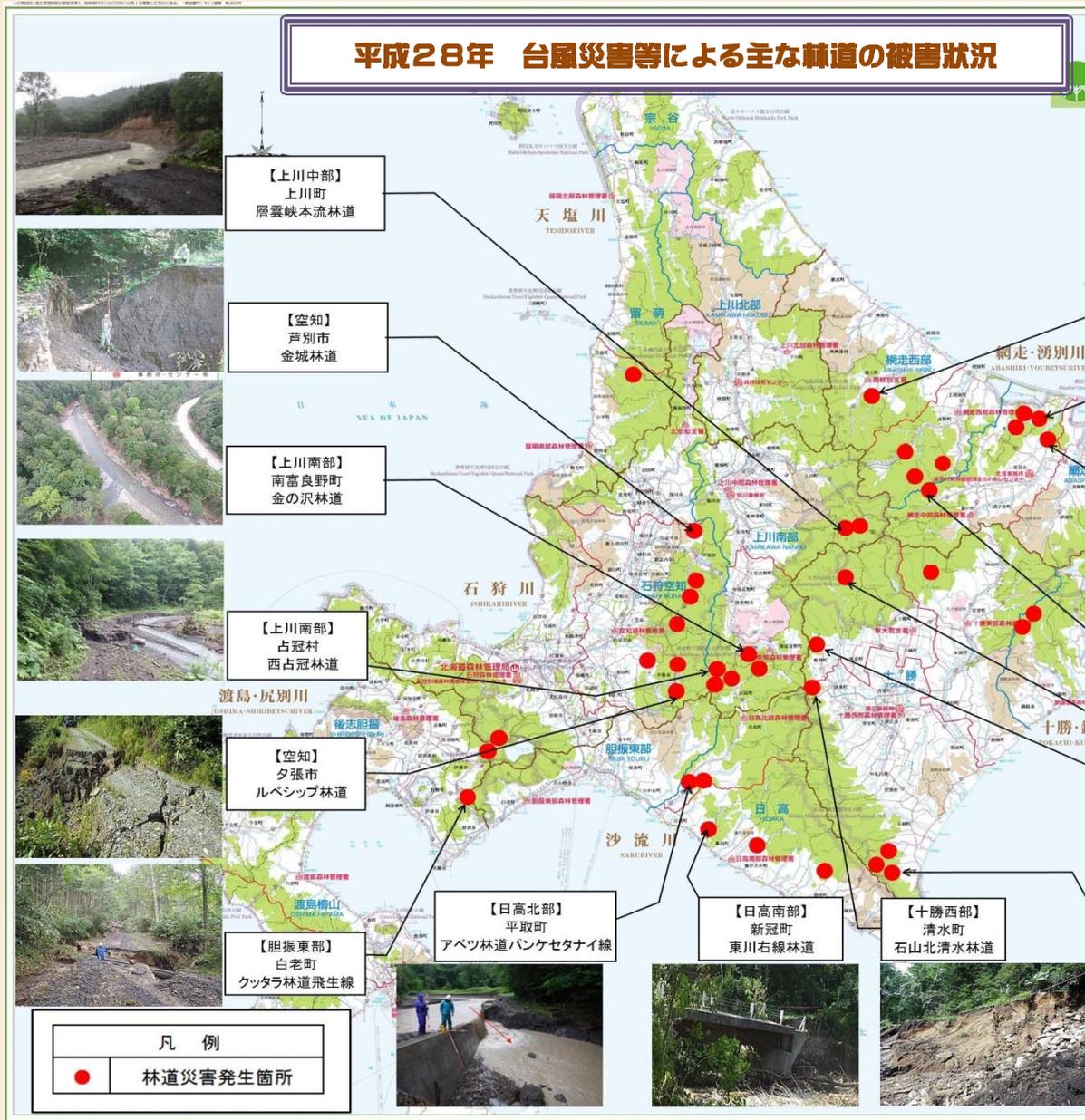
延長（7,300m）



被災した清流橋（清水谷林道）

8月30日、台風10号の通過により沢水が異常出水して清水谷林道「清流橋」が損傷し、林道奥にある浄水場施設までの車両の通行が不可能となり、上士幌町の農村地区及び一部市街地の生活用水の確保に支障が発生しました。

平成28年 台風災害等による主な林道の被害状況



本格復旧には多くの時間を要することが見込まれるため、応急的に

仮設橋を設置して、住民の不安を解消しました。

設置した仮設橋（清水谷林道）



今年のような異常気象時には、地域住民の緊急避難路や生活道の迂回路として林道を要請されることもあり、普段のこまめな情報共有と連絡体制の構築が大切です。  
今後とも地域に貢献することができるよう、適切な林道の維持管理に努めて参ります。  
（森林整備第二課）

# 低コスト造林の推進・普及に向けて

地域課題の解決に向けた取組

留萌南部森林管理署

留萌地域では、トドマツ等の人工林の多くが間伐から主伐期を迎えつつある中、伐採された木材の有効利用が課題となっています。

加えて、伐採後の再造林箇所が増加する傾向にあり、植栽やその後の下刈など育林に係る経費が人件費や資材費の上昇もあり高くなる一方で、従事者の高齢化や担い手不足が深刻化しています。

このため、造林の低コスト化と省力化が地域の民有林・国有林共通の喫緊の課題となっています。当署では、国有林の事業現場を活用して、次のような低コスト造林の推進・普及に向けた取組を行っています。

## 下刈2回刈の省力化

(平成25～平成27)

造林コストの約3割を占める下刈において、植栽木が小さい時に行っている年2回の下刈を1回刈にできないかという取組で、刈払回数毎に3年間継続調査を行い、そのデータから適期での1回刈に省略可能と判断しています。



下刈り2回刈り省力化の調査

## 伐採・コンテナ苗植栽に係る一貫作業(平成26)

平成26年に当署では初めて伐採から植栽までの一貫作業を行いました。

一貫作業は、伐採・搬

出と同時に地拵・植栽を行う作業システムであり、伐採等に用いる機械を造林作業に活用することやコンテナ苗の利用も含め作業の効率化・低コスト化が図られます。

併せて民有林関係者を交えて現地検討会を開催し、大型機械地拵やコンテナ苗植栽を演習して意見交換を行い、機械の効率的な活用や、活着がよく植付時期を選ばないコンテナ苗のメリットについて情報共有を図りました。

特にコンテナ苗を初めて見る人が多かったため、高い関心が寄せられ、今後の民有林への活用に向け意義あるものと感じています。

さらに、27年の留萌振興局との現地検討会では、

コンテナ苗と普通苗の植栽箇所を比較した生長調査結果について意見交換を行うなどフォローアップをしています。



一貫作業での大型機械地拵

## 一貫作業と低密度植栽の取組(平成28)

本年は、さらなる低コスト化の試みとして、一貫作業の植栽においてh

a当たり植栽本数で通常の2500本のほか、低密度植栽として1500本、1000本の植栽に取り組みました。

9月の民有林関係者等

この現地検討会ではこれらの箇所を比較し意見交換を行い、植付コストの削減に向けた情報共有を図りました。



一貫作業と低密度植栽の現地検討

これらの取組については、今後も実証や追跡調査を継続的に行い、そのデータを民有林関係者に情報提供する考えであり、国有林の技術力が民有林支援の一助となり、地域でより効率的な森林整備が図られ林業の成長産業化に繋がっていくよう期待しています。



駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター

駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターです。

今回は、平成18年以降自然再生モデル事業の実施構成メンバーからの依頼を受け、継続して受け入れている、海外ボランティアの今年度の活動について紹介したいと思います。

今年は、ラトビア、ロシア、ドイツ、ベトナム、メキシコ、中国、台湾、シンガポール、日本から集まった若者たち（17から30歳）、延べ17名（長期6名、短期前半6名、短期後半5名）に、7月27日から9月14日までのうちの10日間、森林作業を手伝って頂きました。

また、渡島、檜山森林管理署から、若手職員の参加もあり、英語に触れ、他国の食品を食すなど異文化交流も行いました。

**地拵、植付**

大沼地域自然再生等モデル事業地内のカラマツ林で間伐後の上層木のま

ばらな箇所では地拵をし、ナラやイタヤなどの苗木をカミネツコンによる植付を行いました。

カミネツコンづくりというパーパークラフトが特に楽しかったようです。



植付箇所の地拵え

**草刈り（下刈）**

自然再生等モデル事業地内の作業道や歩道などの草刈りを実施しました。炎天下での作業でしたので、時間とともに疲れを見せていきましたが、しっかり草刈りを実施していただいたおかげで、後の自然再生等モデル事業関連の植生観察や間伐の実行の際の移動に支障がなくなり、大変役立ちました。



事業地内の歩道の草刈り

**間伐（除伐II類）**

当センターの森林環境教育の場として使っている軍川のトドマツ人工林（34年生）で、間伐体験をしてもらいました。



鋸を手に間伐

10cm程度の植栽木のうち形状の悪いものや成長を阻害された木などを伐採しました。

普段使うことのない鋸に興奮しつつ楽しんで伐倒していました。

**登山**

当センターの名前にもある駒ヶ岳に登りました。ワークキャンプのメンバーたちが滞在している宿舎からも見える山で、晴れていればもっと感動したのですが、山頂に着いたときには雲の中でした。

山頂での休憩中に、森林ボランティアの実態、地域の人が参加しないわけについてなどの素朴な疑問の返答に苦慮する場面もありましたが、森林ボランティアが初めてという中、森林ボランティアを理解しようと疑問を投げかけ、森林作業に一心に取り組む姿勢に意識の高さを感じました。



駒ヶ岳登山（山頂にて）

# こんにちは 森林官です！

留萌北部森林管理署 羽幌森林事務所  
地域統括森林官  
(羽幌・奥羽幌担当区)  
定村 健二



こんにちは、留萌北部森林管理署・羽幌森林事務所です。

当事務所は今では非常に珍しい木造の壁を持った、とってもレトロな雰囲気？の事務所で、羽幌担当区・奥羽幌担当区の2つの担当区を有しています。

スタッフは森林官である私と、行政専門員1名・非常勤職員2名の計4名です。



山火事用空中消火機材の点検整備

当事務所には山火事用の空中消火機材の保管庫があり、機材の点検整備やバッテリーの充電など有事の際に確実に対応できるように日頃から点検整備を行うといった他の

事務所ではあまり無い用務も受け持っています。

管轄区域の国有林面積は2万ha以上あり、中央を流れる羽幌川は住民の重要な飲み水として利用され、羽幌町の水瓶となっています。

平成28年度の主な事業は、造林下刈等が25ha、立木販売(間伐)1,500m、治山事業下刈等2haとあまり多くはありません。

と言うのも平成25年の集中豪雨により幹線林道である羽幌本流林道が通行できない状況となったためです。

現在は少しずつ復旧が進んでいますが、全線通行にはもう少ししばらくかかりそうです。

そのような中、地域の子供たちに森林・林業の大切さや国有林の魅力を現地で伝えることは重要な任務と考えており、森林教室の講師の依頼があった際には、毎回工夫を凝らして取り組んでいます。

最近、印象深かった出来事の一つを紹介します。

森林教室において「森を守っていくためには私たちは何をすればいいですか？」と言う質問がありました。

子供たちに出来ることで、今後に向けた啓蒙となる答えは何かと考えた結果、「もっとたくさん木製品を使ってください」、「割り箸も大いに使ってください」と、子供たちの思っていることとは逆の話で切り込んでみました。



森林教室の様子

木は再生可能なエネルギーであることや端材で作った割り箸でも収入になればもっと森林は良くなること、木材を使うことでエネルギーコストが大幅に下がることなどを説明しながら、「木を切つて木を使うことが森を守り温暖化防止につながる」と話をする、とても興味を持って聞いてもらえました。

さて、最近特に苦慮しているのは、農地を風害・塩害から守っている防風保安林の老齢化対策です。

防風林は田んぼの真ん中にあり周りを道道や町道等に囲まれていることが多く、立木の老齢化による立ち枯れや胴腐れに伴う危険木の確認とその処理にはスタッフの多くの時間を費やしています。

羽幌地方の防風保安林は、100年を超える老齢木が多くなっています。

しかし、地元住民や地元産業を守っている防風保安林の役割は重要であり、住民の声に丁寧に耳を傾けながら、その維持・管理に日々努力している羽幌森林事務所です。

# 各地からの便り

「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

## 「下川町林業体験バスツアー」を開催

【上川北部森林管理署】

10月12日、下川町と上川北部森林管理署の共催により、民有林と国有林が一体となって効率的な森林経営を推進することを目的として設定された森林共同施設園地内において、「林業体験バスツアー」を開催しました。

このイベントは毎年実施しているもので、町民の方を対象に参加者を募集し、国有林と町有林等をバスツアー形式で巡り、林業体験や見学により地域の森林・林業への理解を深めて頂くことを目的としたものです。



国有林での枝打ち体験



木質バイオマスボイラーの見学

今年度は下川商業高校、土別翔雲高校の生徒55名が加わり、総勢129名の参加で行われました。

林業体験では、国有林でのアカエゾマツ人工林の枝打ちを行いました。下川町の木質バイオマス原料施設や、集住化住宅への木質バイオマスボイラーの地域熱供給システム等の見学では、興味津々に見入っていました。

## ポロト自然休養林40周年記念事業

【胆振東部森林管理署】

10月23日、白老町において、「ポロト自然休養林40周年記念事業実行委員会」主催のポロト自然休養林40周年記念事業が開催されました。

当日は肌寒いながらも晴天に恵まれ、白老町内や苫小牧市、登別市等から多くの方々の参加があり、ノルディックウォーキングやクラフト作り、丸太切りの体験を行いました。

ノルディックウォーキングでは、7.3km、4.2km、2.5kmの3コースに分かれ、晩秋のポロト湖周辺を散策しました。

ウォーキング終了後は、参加者にアイヌ民族の伝統料理「オハウ」が提供され、冷えた身体を温めました。

また、展示ブースでは、クラフト作りと丸太切りの体験コーナーを用意し、小さい子から大人まで多くの方が立ち寄り、楽しんで頂けたと思います。



ノルディックウォーキングの様子



クラフト作り

## 知床半島ルシャ地区の合同清掃活動

【知床森林生態系保全センター】

10月27日、斜里町ウトロのボランティア団体「知床きれいにし隊」の呼びかけにより、環境省、斜里町と合同で総勢約40名が、知床半島ルシャ地区の海岸沿いにて清掃活動を行いました。

この活動は、知床半島の斜里側で15年前から継続して行われております。

車で移動すること約1時間、ルシャ地区に到着し、漂着物のゴミ拾いを行いました。

ルシャ地区は、断崖絶壁が多い他の場所と比べ、浜が存在する数少ない海岸のため、多くのゴミが漂着しやすくなっています。

開始して1時間を過ぎた頃には、用意したトラックと乗用車の荷台がいっぱいになりました。

今後も、地域の関係機関がルシャ地区に限らず、知床半島を美しい姿に保つという共通意識のもと、このような活動を継続していくことが重要だと考えます。



トラックの荷台にいっぱいのゴミ



漂着物のゴミ拾い

森林・林業・木材加工見学ツアーを開催

〔網走中部森林管理署〕

10月29日、置戸町、新生紀森林組合と当署の共催による「置戸の森林見学会―森林・林業・木材加工見学ツアー」を開催しました。

このイベントは、森林・林業や木材利用の普及啓発活動として、昨年度から取り組んでいるもので、置戸町において伐採された木材が製材工場で加工され、建築等の材料となる流れを実際に見ることで、森林・林業や木材利用の重要性を理解してもらうことを目的に行われ、13名の参加がありました。

ツアーでは、町有林での伐採（間伐）作業の現場や製材工場でカラマツ丸太が製材・加工されていく工程を見学し、無駄なく木材が利用されていることに理解を深めていました。

参加者からは、「森林について興味を持った」「木についてより深い親しみを持った」「林業の仕事がどのように行われているか知ることができた」などの感想があり、森林・林業への関心を深める大変有意義な見学会となりました。

←伐採作業現場の見学



→製材工場の見学



「木育・森づくりフェア」を実施

〔根釧西部森林管理署〕

11月12・13日の2日間、釧路市のイオンモール釧路昭和店において、「木育・森づくりフェア」を実施しました。

釧路管内では、地域の方々に木とふれあう機会を提供し、森づくりの重要性や木の良さなどに対する理解を深めてもらうことを目的に、「釧路町村会地域づくり広域プロジェクト環境保全型森づくりプロジェクトチーム」と「くしろ森と緑の会」を中心に平成23年度から毎年実施しており、今年で6年目を迎えます。

イベントは3つのコーナーで構成されており、管内の木育・植樹活動の様子を写したパネルや地域材を活用した木製品の展示コーナー、木の玉のプールや木のポウリングなどの木製遊具を設置した木育広場コーナー、木工体験を通して木に触れてもらう木のふれあいコーナーです。

イベントは2日間で735名と、昨年の約1.5倍の方に来ていただき、大盛況のうちを終えることができました。



→木の葉のしおりづくり



←ミニツリーづくりの様子

北海道森林管理局は、広大で大変豊かな森林を国民共通の財産として、世代を超えたさまざまなニーズに答えられるよう、持続的な管理経営に努めるとともに、より豊かな姿で次の世代に引き継ぐことを使命としています。

北海道森林管理局のホームページ内では、「公売・入札情報」「知床世界自然遺産」「エゾシカ対策」「森もりースクエア」「イベント情報」等の各サイト内において北海道国有林の情報をお届けしております。

※平成28年12月11日(日)より、リニューアルいたします。



お知らせ

「北の国・森林づくり技術交流発表会」の開催について

北海道森林管理局では、平成29年2月2日、3日の2日間、北海道大学「学術交流会館」において、森林・林業に係る技術情報等の情報交換を図るため、「平成28年度北の国・森林づくり技術交流発表会」を開催することとし、森林づくり、森林環境教育を含め、森林・林業に関連する取組活動についての発表を行います。

※詳しくは、北海道森林管理局HPをご覧ください。

広報 「北の森林 国有林」12月号  
 発行 林野庁北海道森林管理局  
 編集 総務企画部 企画課  
 〒064-8537 札幌市中央区宮の森3条7丁目70  
 I P 電話 050-3160-6300  
 電 話 011-622-5213  
 F A X 011-622-5194

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>